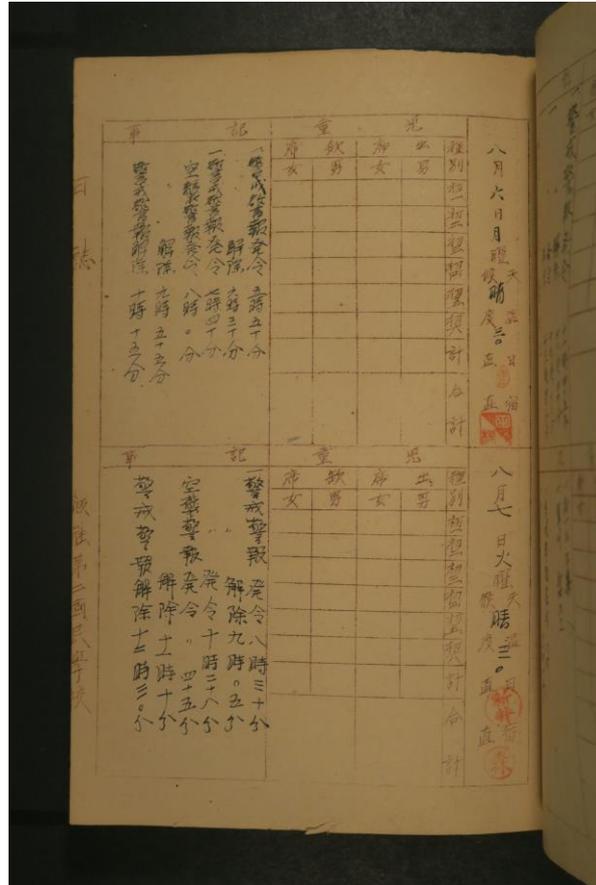


20年8月6日の飯能



昭和 20(1945)年 8 月 6 日 午前 8 時 15 分、人類史上最初の原子爆弾が広島に投下されました。広島にはこの日午前零時 25 分に、空襲警報(空襲の危険が高い場合、午前 2 時 10 分解除)が、午前 7 時 9 分に警戒警報(敵機来襲の恐れがあるが、空襲の危険性はより低い場合、午前 7 時 31 分解除)が出されていました。飯能第二国民学校の日誌にあるように、同日飯能町でも午前 7 時 40 分に警戒警報(午前 10 時 15 分解除)、午前 8 時に空襲警報(9 時 55 分解除)が発令されていました。同じ頃、飯能町の方は 650 km 離れた広島でこのような惨劇が起こっていたとは想像もできなかったことでしょう。

立川の軍需工場では、その日のうちに広島に特殊な爆弾が落とされたことが伝わっており、編隊機の場合に発令されていた空襲警報が、一機の来襲だけでも出されるようになったとのこと。原爆投下の衝撃は、全国の防空体制に影響を与えていたのです。